# SNBL REPORT

証券コード：2395

新日本科学 株主通信［2023.4.1－2023.9.30］

# 持続的成長に向けて、戦略的投資を実施しています

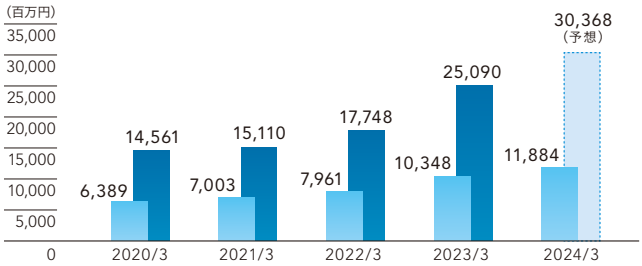
代表取締役会長兼社長

永田 良一

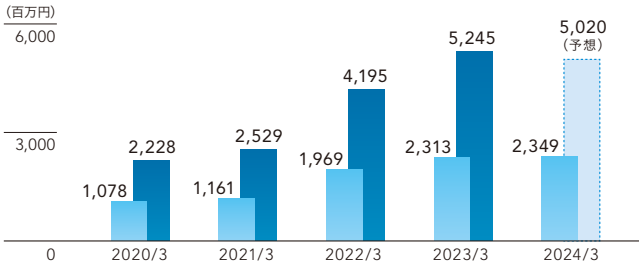
## 業績サマリ

第2四半期累計　通期

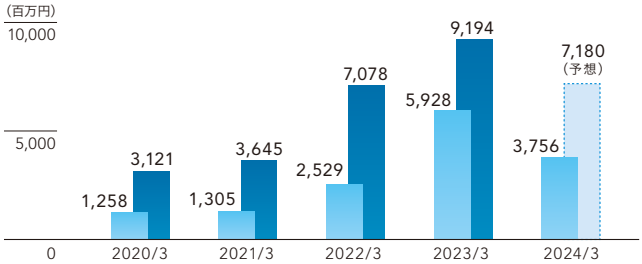
### 売上高



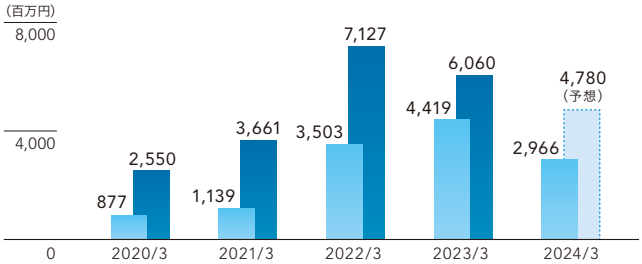

### 営業利益




### 経常利益




### 親会社株主に帰属する当期純利益




## 業績のポイント

2024年3月期上期の業績は主力のCRO事業がけん引し、売上、利益とも順調でした。売上高は、2期連続の過去最高となり、営業利益は5期連続で過去最高益を更新しました。経常利益は前年同期比で21.7億円の減益となり、残念ながら6期連続で過去最高にはならなかったのですが、これは本業で稼ぐ力が落ちたというわけではなく、為替差益の減少が要因です。営業外収益に計上される為替差益は、前年度上期は25.8億円も計上されましたが、この上期の為替差益は2.4億円の計上となり、23.4億円減りました。これが減益要因であり、為替の影響を除くベースでの経常利益では、前年同期比5.1%増益となっております。経常利益については、臨床事業を行っている新日本科学PPDからの持分法利益（営業外収益の項目に計上）が前年同期比2.4億円増の12.3億円と過去最高を更新したことも貢献しています。

# CEO INTERVIEW

## Q 2024年3月期上期の業績についてご説明願います

### A 主力のCRO事業がけん引し、売上高、利益とも会社計画を上回りました

上期業績は経常利益が前年同期比で21.7億円（36.6%）の減益となっていますが、これは前上期に営業利益を上回る25.8億円もの為替差益が発生し経常利益を大きく押し上げたことが原因であり、為替の影響を除いて比較すると前年同期比1.7億円（5.1%）の増益となります。8月2日に発表した上期業績の修正予想を売上高、利益ともに上回って推移しましたので、配当についても期初計画通り一株当たり20円の中間配当実施を予定しております。非臨床事業の上期受注高が126.5億円と前年同期比5.4%の減少となりましたが、足元の状況は受注契約の先行指標である問い合わせの状況が好転しており、10月に入り海外顧客からの問い合わせは増加しています。強調したいことは、米国大手臨床CROのPPD社との合弁会社である新日本科学PPDにおける臨床事業の業績が順調なことです。新日本科学PPDからの持分法利益が前年同期比2.4億円増の12.3億円と上期として過去最高を更新しております。当社のCRO事業は、非臨床事業という収益エンジンに、臨床事業という収益エンジンが加わり、競合他社がまねのできないビジネスモデルとなっています。

## Q 2024年3月期下期見通しと今後の方向性についてご説明願います

### A 持続的成長に向けて、人材、施設、実験用NHPの国内繁殖に重点的に投資します

当社の主力事業であるCRO事業について、現状の当社を取り巻く事業環境をさらなる成長への好機ととらえており、人材の強化、施設の増強、実験用NHPの国内繁殖体制確立の3つに重点的な投資を行っています。人材は23年4月の新入社員を149名（前年4月は40名）採用しました。施設は、受託試験施設の拡張工事を進めており、鹿児島本社敷地に建設中の地上8階建の新社屋・研究棟は24年5月末頃に完成予定です。実験用NHPを用いた非臨床試験は新しい創薬モダリティの安全性試験に欠かせない状況となっており、当社は安定的な実験用NHPの繁殖・供給体制に向けて国内外で戦略的な大型投資を進めています。これら戦略的な取組みを下期も継続してまいります。

今期の減益予想の主因は、米国Satsuma社買収に伴う一時的費用11百万米ドル（日本円で15.9億円）が下期に計上されることですが、2023年3月に米国FDAに承認申請した経鼻偏頭痛薬「STS101」の審査結果が2024年1月中旬に発表される見通しです。FDAとの協議では非常によい感触を持っており、承認が得られた場合は、スピード感をもって米国内での販売に向けた活動に取り組んでまいります。

## Q 企業価値向上に向けたSDGs/ESGへの取組みについてご説明ください

### A 女性活躍推進の取組みが評価され「プラチナえるぼし」の認定を得ました

2023年11月1日に「統合報告書2023」を発行しました。統合報告書では、2028年度のありたい姿として「2028 Vision：ステークホルダーに寄り添い、幸せの連鎖を創造する」と掲げています。私は、人的資本経営の取組みについて、事業の根幹は「人を育てること」と考えて経営してきました。「人財」こそが、競争優位性を築き、他社との差別化ができる重要な戦略コアと考えており、企業価値向上を実現するための源泉ととらえています。そのため、永田塾を通じて社員育成に多くの時間を投じています。

今年度の最大のトピックは2023年10月11日付で「プラチナえるぼし」の認定を取得したことです。女性活躍推進の取組みが優良な企業を、厚生労働大臣が認定する「えるぼし」認定というのがあり、これまで星3つが最高だったのですが、2020年6月からさらに上の「プラチナえるぼし」という認定制度が始まっております。日本には上場企業が3,800社強ありますが、認可を得るためのハードルは高く、当社は上場企業で7社目の認定となり、ヘルスケア系としては初めての認定取得となりました。

株主の皆様には、当社の持続的成長をお見守りいただき、引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

TOPICS 1

## バイオアナリシス業務の中核拠点

# 薬物代謝分析センター

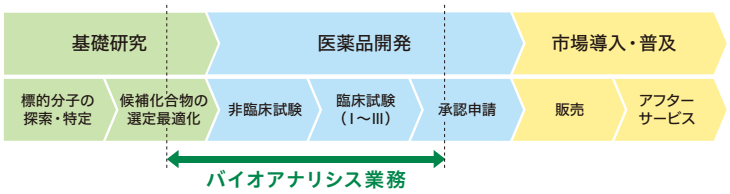
## 「バイオアナリシス業務」とは？

当社の主力事業は医薬品の開発支援であり、製薬企業などの顧客から提供された医薬品等開発候補品（薬物）の安全性や有効性を確認することです。薬物（被験物質）は体内に投与されると吸収、分布、代謝という過程を経て体外に排出されますが、これらの各過程で投与された薬剤がどれくらい組織に届いているのかを分析するため、非臨床事業では実験動物に薬物を投与し、血漿など生体分析試料を採取し、分析試料中の薬物濃度を測定し解析します。

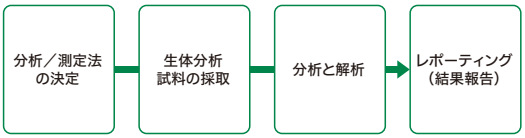
薬物（被験物質）やバイオマーカー※1の濃度分析を「バイオアナリシス」と呼びますが、医薬品業界では抗体医薬※2に加えて核酸医薬や抗体薬物複合体（ADC）、遺伝子治療薬など新たな創薬モダリティの開発が進んでおり、それら測定系の構築や正しく測定することの需要が高まっています。

※1 バイオマーカー：血液や尿などに含まれる生体内物質を調べることで、病気の変化や治療に対する反応をみる生物学的指標のこと。
※2 抗体医薬：抗体を利用した医薬品のこと。細胞表面の目印となる抗原と特異的に結合することで効果を発揮し、高い治療効果と副作用の軽減が期待されている。

### ■ 医薬品開発のプロセスとバイオアナリシス業務の範囲




### ■ バイオアナリシスの業務フロー



和歌山薬物代謝分析センター

高感度の質量分析計

## 新日本科学の“薬物代謝分析センター”

当社のバイオアナリシス業務の中核拠点が薬物代謝分析センター（Pharmacokinetics and Bioanalysis Center）です。1998年8月に和歌山県海南市の海南インテリジェントパーク内に開設しました。開設以降、医薬品GLP適合性調査※3ではすべて最高評価を得ています。分析機器の主力機器である液体クロマトグラフ質量分析計（LC-MS/MS）については国内CROでは最も多い40台以上を備えています。また高感度の最新モデルも複数台設置しています。鹿児島の安全性研究所にもバイオアナリシス業務の機能はありますが、抗体医薬など高分子医薬品の分析を行うリガンド・バインディング・アッセイ（LBA）を中心としており、当社は和歌山の薬物代謝分析センターと鹿児島の安全性研究所が連携して顧客からの拡大する様々なバイオアナリシス業務の需要に対応しています。新たな創薬モダリティの開発はこれから本格化すると考えられ、今後の市場拡大が期待できる領域となっています。

※3 医薬品GLP適合性調査：GLP（Good Laboratory Practice）は医薬品や医療機器等の製造販売承認申請に必要な安全性試験を実施する施設に適用される「優良な試験所の基準」。医薬品GLP適合性調査では、医薬品の安全性に関する非臨床試験を実施する上で必要なGLP基準を満たし運営されているかどうかが調査される。

TOPICS 2

# 祝！プラチナえるぼし認定！新日本科学が取り組む女性活躍推進

プラチナえるぼし 女性が活躍しています！

## 2023年10月、上場企業で7社目 ヘルスケア分野では初のプラチナえるぼし認定企業に

2023年10月末時点の「プラチナえるぼし」認定企業数は**44**社、そのうち上場企業は**7**社 ヘルスケア分野の上場企業としては **初の認定企業**

### 「えるぼし」認定とは？

「えるぼし」は、2016年4月1日から施行された女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）に基づく認定制度です。

その中でも…

### 「プラチナえるぼし」とは？

2020年6月に創設された「プラチナえるぼし」は、「えるぼし」認定企業のうち、

- **行動計画の目標達成**
- **女性の活躍推進に関する取組みの実施状況**について、

特に優れた取組みを行う企業に対し厚生労働大臣より認定を受けるものです。

**新日本科学がプラチナえるぼし認定企業に選定された理由**

- 男性社員の育児休業取得率 100%に組織一丸となって取り組み、**男性の育児休業取得率100%**を達成したこと
- ライフステージにより制約がある社員も誰もが公平にチャンスを与えられるよう、**職位ごとの昇格要件を開示**したこと等の取組みによって、**女性管理職比率 24.4%を達成**したこと等が評価されました。

## 女性活躍推進への取組み

新日本科学の女性活躍推進への取組みは、2007年に女性の働き方に関する全社アンケートを実施し、その結果を分析して、職場併設型託児所の設置など、女性が働きやすい職場改善を積極的に始めたことが発端です。その後、組織横断的に各部門から女性の委員を選出し、「働くなでしこ委員会」を編成しました。同委員会は、女性が職場で十分な能力を発揮するために必要なものは何か、社員が日々の業務で気づいた「もっとこうだったらいいのにな」「こうしてほしいな」などの現場の声を吸い上げることができる仕組みとして発足し、毎週30分のミーティングを継続しています。

**働くなでしこ委員会の取組み**

部門・拠点横断的に **全社でアンケートを定期的に実施**し、その結果をもとに**具体的な施策の導入を検討する**

**子育てやキャリアなどをテーマとしたランチョンセミナーを開催**することで、社内での**ネットワーキング機会**を提供し、部署や職種、役職の垣根を越えた様々な**コミュニティの形成**を促す

**委員会の成果**

現在のメンバーは4期目で、これまでに**50を超える改善**がなされてきました。なでしこ委員会発足以降、**結婚・出産を理由として退職する女性の割合**は**38.5%（2007年度）から1.5%（2020年度）に改善**しています。

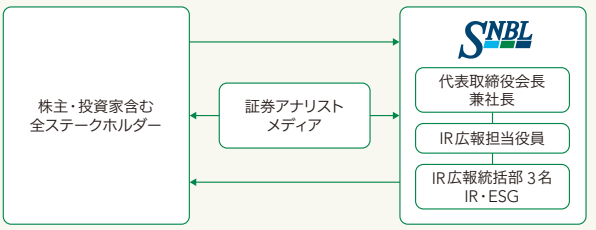
### 働くなでしこ委員会メンバー INTERVIEW

多くの女性社員が働いていて、出産・育児後も活躍されています。産休・育休はもちろん、復帰後は育児時短勤務制度があり、各家庭に応じた勤務時間で働いています。同じ経験を持つ女性社員が多く働いているので、制度を利用しやすい雰囲気だと思います。また、看護や介護などで出社が困難な場合にも、テレワーク勤務制度を利用して働くことができます。自分に合った働き方を選択できるので、キャリアアップを目指す女性にも働きやすい環境だと思います。（北村）

委員会は常に和やかな雰囲気で、自由に意見を言い合うことができます。違う拠点の課題だとしても、「こんなサービス知っています」「この拠点ではこう解決しました」と、自分なりの意見を出し合うことができるため、一体感を感じます。昨年は、社員が困っていることを記入できるフォーマットを作成したので、より多くの課題をスピーディに解決できるようになりました。今後とも、より多くの社員の方が自身の力を十分に発揮でき、安心して働ける環境作ることができればと思います。（笈西）

# IR広報だより

■ 新日本科学のIR活動体制



IR広報統括部メンバー

みなさん、こんにちは。IR広報統括部長の岩田です。早いもので2023年度も約半分が経過しました。当第2四半期連結累計期間において、当社は機関投資家ミーティングを168件（前年同期は162件）実施しました。5月には個人投資家向け会社説明会を鹿児島市で代表取締役社長をスピーカーとして開催し、株主や投資家の皆様とトップマネジメントが直接・双方向でコミュニケーションをとれる場を設けました。当社は2024年3月に上場20周年を迎えます。今後も「明るく・楽しく・笑顔で！」チーム一丸となって、市場との建設的な対話機会の拡充に努めていきます。さて、今回は以下のトピックについて紹介します。

## 1 「JPX日経中小型株指数」構成銘柄に継続選定

去る8月、当社はJPX総研と日本経済新聞社が共同で算出を行う「JPX日経中小型株指数」に継続選定されました。同指数は「投資者にとって投資魅力の高い会社」を構成銘柄とするJPX日経インデックス400と同じコンセプトを中小型株に適用し、持続的な企業価値の向上、株主を意識した経営を行っている企業で構成する株価指数です。構成銘柄の選定は、東京証券取引所のプライム市場、スタンダード市場、グロース市場を主市場とする普通株式を対象に、定量的な指標（3年平均ROE、3年累計営業利益）に定性的な要素（独立した社外取締役の選任、女性役員の選任、決算情報やコーポレートガバナンス報告書の英文開示等）を加味した基準で行われ、上位200銘柄が選定されています。当社はこれからも同指数の構成銘柄として、資本の効率的活用や市場・投資家を意識した経営を推進してまいります。

JPX-NIKKEI Mid Small

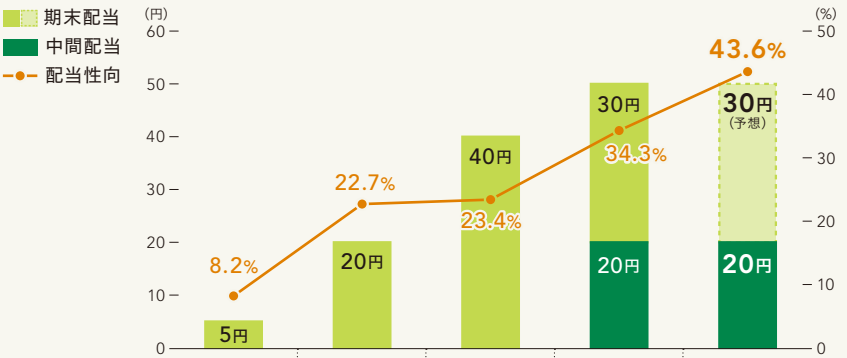
## 2 業界ダントツの開示レベル

当社は、四半期ごとに業績に関する開示レベルをあげることを目標としています。IR広報統括部が発足し、まず行ったことは当社の主力事業である非臨床事業の業績の先行指標となる受注高と受注残高の四半期ごとの開示です。次の四半期では受注高の内訳を国内受注高と海外受注高に分けて開示し、次の四半期では海外受注高の内訳を欧米とアジアに分けて開示しました。2022年度の第3四半期ではこれまで業界ではタブーとされていたキャンセルの金額の開示を行いました。CRO業界では「業界ダントツのIR」と自負しており、海外投資家からも当社の開示レベルの高さに驚かれています。

## 3 新日本科学の株主還元方針

当社は、株主の皆様への安定的な利益配当を経営上の重要政策の一つとして認識しており、連結配当性向30～40%を目処として、基礎的な収益力やキャッシュ・フローの状況等を勘案の上、決定することを基本方針としています。2022年度は売上高と営業利益、経常利益が過去最高を更新したこともあり、初の中間配当20円を実施し、期末配当30円を含めて1株当たり年間50円配当と過去最高の1株当たり配当を実施しました。2024年3月期についても、業績動向や財務状況、今後の事業展開等と株主の皆様への利益還元を総合的に勘案し、1株当たり年間配当金50円（うち中間配当20円）の継続を見込んでいます。

配当金と配当性向の推移




| | '20/3期 | '21/3期 | '22/3期 | '23/3期 | '24/3期 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1株当たり配当額 | 5円/株 | 20円/株 | 40円/株 | 50円/株 | 50円/株 |
| 配当総額（百万円） | 208 | 832 | 1,665 | 2,081 | 2,081 |
| 配当性向 | 8.2% | 22.7% | 23.4% | 34.3% | 43.6% |
| 配当性向（為替/特別損益/Satsumaを除く） | 7.3% | 28.8% | 34.3% | 39.0% | 34.2% |

## 株式の概要 (2023年9月30日現在)

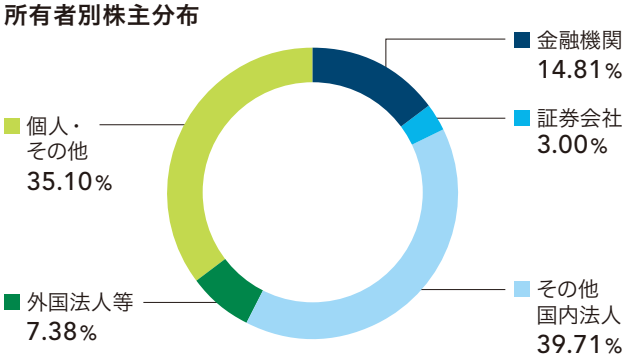
**発行済株式の総数** 41,632,400株(自己株式 469株を含む)

**株主数** 14,839名(前期末比 4,630名増)

### 大株主の状況 (上位10名)

| 株　主　名 | 持株数(千株) | 持株比率(%) |
|---|---|---|
| Nagata and Company株式会社 | 14,740 | 35.41 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 3,232 | 7.76 |
| 永田貴久 | 2,030 | 4.88 |
| 一般社団法人メディポリス医学研究所 | 1,474 | 3.54 |
| 株式会社日本カストディ銀行(信託口) | 1,417 | 3.41 |
| 永田郁江 | 1,024 | 2.46 |
| 永田一郎 | 1,024 | 2.46 |
| 梅原理恵 | 1,024 | 2.46 |
| 株式会社鹿児島銀行 | 1,000 | 2.40 |
| STATE STREET BANK AND TRUST CLIENT OMNIBUS ACCOUNT OM02 505002 | 428 | 1.03 |

### 所有者別株主分布




## 役員の状況 (2023年9月30日現在)

| | |
|---|---|
| 代表取締役会長兼社長<br>CEO兼CHO | 永田　良一 |
| 代表取締役副社長<br>グループ財務管掌・グローバルビジネス管掌 | 高梨　健 |
| 取締役副社長<br>CRO事業管掌・ホスピタリティ事業管掌 | 永田　一郎 |
| 専務取締役<br>非臨床カンパニー President Global BD管掌 | 角﨑　英志 |
| 独立社外取締役(非常勤) | 福元　紳一 |
| 独立社外取締役(非常勤) | 山下　隆 |
| 独立社外取締役(非常勤) | 花田　強志 |
| 独立社外取締役(非常勤) | 戸谷　圭子 |

## 株式基本情報 (2023年9月30日現在)

| | |
|---|---|
| **事業年度** | 毎年4月1日～翌年3月31日 |
| **定時株主総会** | 毎年6月下旬 |
| **基準日** | 3月31日 |
| **剰余金の配当基準日** | 3月31日(中間配当を行う場合は9月30日) |
| **上場市場** | 東証プライム(証券コード:2395) |
| **1単元の株式数** | 100株 |
| **株主名簿管理人** | みずほ信託銀行株式会社　証券代行部 |
| **事務取扱場所** | 〒100-8241東京都千代田区一丁目3番3号<br>フリーダイヤル:0120-288-324<br>(土・日・祝日を除く 9:00～17:00) |

## PICK UP! 創業65周年記念式典

当社は8月19日(土)に城山ホテル鹿児島にて、約400名の出席をたまわり、65周年記念行事を開催しました。永田社長による主催者あいさつ、来賓からお祝いの言葉の後に3部構成で行いました。第1部は永田社長が進行役をつとめて、国際政治学者 Kent E. Calder(ケント・カルダー)先生と京都大学経営管理大学院 原良憲先生が『日本の国際的な立ち位置と今後の発展に必要な戦略』をテーマに対談を行いました。第2部は永田一郎副社長演奏のピアノと鹿児島交響楽団 弦楽四重奏のアンサンブル(合奏)、第3部は台湾で天使の歌声として有名な歌手 Lin Yu Chun(リン・ユーチュン)氏のコンサートです。永田一郎副社長は3歳からピアノを始め、順天堂大学医学部在学中にショパン国際ピアノコンクールin Asiaへ数度出場し、アジア大会にて受賞した腕の持ち主であり、ブランクを感じさせない見事な演奏で、ひときわ高い拍手をもらっていました。

**株式会社新日本科学**
**鹿児島本社:**鹿児島県鹿児島市宮之浦町2438
**東京本社:**東京都中央区明石町8-1 聖路加タワー28階
https://www.snbl.co.jp

見やすく読みまちがいにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。